

# 平成 30 年度 事業計画書

(平成 30 年 4 月 1 日より平成 31 年 3 月 31 日まで)

平成 29 年は経済状況が好況を呈し、当財団の基本財産の資金運用の大半を担っている仕組債からも安定して利金が提供され、当初予想を超える収入が見込まれている。しかしながら、世界的な自国優先の保守的な政策動向の強まりなどにより、国際政治はより複雑化の様相を呈しており、さらに地球温暖化の進行等による異常な自然環境の変化や風雨災害等による農作物や人々の生活への深刻な打撃が懸念されている。これらの様々な要因により、平成 30 年度の資金運用については、世界経済の環境状況が当財団の収入に影響する可能性もあるが、常にその動向に注視し、状況に応じて適宜対応していく必要がある。

このような状況の中、当財団では平成 29 年度は、5 年振りの新常務理事体制の中で、KONA 賞授賞のグローバル化、米国での国際ホソカワ粉体工学シンポジウムの開催、KONA 誌出版へのオンライン編集・査読システムの導入、年報の J-STAGE への掲載などを実現した。平成 30 年度は例年通り、主たる事業である研究助成事業を中心として、これまで長年にわたって続けてきた粉体工学に関する講演討論会の開催、ならびに英文学術誌 KONA Powder and Particle Journal の出版等により、粉体工学ならびに技術に関連した分野の発展に貢献していきたいと考える。さらに、平成 29 年度に得られた様々な新しい成果をベースにして、それぞれの事業をより安定的に、かつ効率よく進めていくための努力を継続していく必要がある。

## I. 助成関連事業

本年度は昨年度と同様に、以下の 4 つの助成事業を継続して実施する。

予算額 2,266 万円（事業管理費を含む）

1. 粉体工学に関する優れた研究業績に対する褒賞（KONA 賞）
2. 粉体工学に関する研究のための研究費助成（研究助成）
3. 粉体工学に関する研究に従事する研究者の育成の援助（研究者育成援助）
4. 粉体工学に関する研究成果公開の援助（シンポジウム等の開催援助）

KONA 賞は、粉体工学の分野において多大な貢献をされた研究者に授与されるもので、当財団設立当初より平成 28 年度まで日本人が推薦され受賞してきたが、平成 29 年度に初めてグローバルベースで推薦の応募を受け、審査する体制作りを確立し、平成 29 年度に当財団の事業としては初めて KONA 賞に海外研究者が採択された。平成 30 年度は、この国際化の 2 年目となり、この国際的な推薦募集、選考審査システムがグローバルベースで円滑に運営されるように注意を払いながら検討を進めていく予定である。

## II. 特定事業

当財団の「設立 25 周年記念特定事業」として、平成 27 年度より平成 29 年度まで積立てを行い、平成 28 年度は、東京理科大学藤嶋学長の特別記念講演を含む、粉体工学に関する講演討論会の第 50 回記念大会を実施し、平成 29 年度には、第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウムを米国で開催した。さらに、2007 年に初版が出版され、当財団で出版支援を行った

Nanoparticle Technology Handbook の第 3 版を平成 29 年度内に出版し、追加原稿の執筆者に寄贈するとともに財団で所蔵する予定である。

当財団では、活動のグローバルな展開の促進を目指して、新たに「アジアでの国際化展開特定事業」を設定し、平成 30 年度から 2 年間の積み立てを行い、平成 31 年度に、これまで欧州(第 1 回)ならびに米国(第 2 回)にて開催した国際ホソカワ粉体工学シンポジウムを、経済発展が著しく技術的にも進歩が目覚ましい中国等で開催することを目指す。

平成 30 年度積立予算額 150 万円

平成 31 年度にさらに 150 万円を積み立て、合計 300 万円で本特定事業を実施する。

なお、「設立 25 周年記念特定事業」の余剰金額が確定した際にはこれを、「アジアでの国際化展開特定事業」に組み込む予定である。

#### 1. アジアでの国際化展開特定事業

平成 29 年度は、当財団の設立 25 周年記念特定事業の一環として 2017 年 10 月 4 日に米国ニュージャージー州サミットにて第 2 回国際ホソカワ粉体工学シンポジウムを開催した。これは、2014 年 9 月にドイツ・アウクスブルクで開催された第 1 回に続くもので、当財団が出版する KONA Powder and Particle Journal の編集委員も参加し、当財団の国際的な活動に有益なものとなった。そこで、これらの実績を踏まえて、欧米での開催に続いて、第 3 回の同シンポジウムを 2019 年に、近年進歩の著しい中国等で開催し、アジアでの展開に資することを目指す。特に KONA 誌の出版に関してはこれまで日本が中心となり、日本国内で編集委員会が開催されていた事情もあり、日本以外の編集委員との直接的な接触、議論の機会がほとんど得られなかったが、本シンポジウムの機会に中国等の編集委員との連携を強化し、また執筆候補の推薦を促進させる契機になることを目指す。

### III. 財団自主事業

#### 1. 粉体工学に関する講演討論会の開催

① 予算額 502 万円

② 趣旨・内容

粉体工学の当面の重要課題を選び、第一線の研究者(5~6名)から最近の研究成果について講演して頂き、その課題に関心をもつ研究者・技術者の参加を募集する。講演と討論を通じて粉体工学の発展に資することを目的とする。毎年 1 回、会場は大阪・東京において隔年開催を原則とする。(平成 30 年度は東京において開催の予定)

平成 30 年度の粉体工学に関する講演討論会では、平成 29 年度 KONA 賞受賞者を海外から招待しての記念講演を予定している。本件を含めて 6 件程度の大学ならびに企業からの講師による講演を中心として、粉体工学ならびに技術に関する情報提供、意見交換等によりその発展を図ることを目指す。

③経費および用務の分担

本講演討論会の企画については粉体技術談話会に委嘱し、そこでテーマの設定、講演

者・討論の司会者の選定等を行う。参加費はすべて無料とし、講師謝礼、旅費、宿泊費およびテキスト印刷費などの予算を計上する。

## 2. KONA誌の発行

① 予算額 782 万円

② 趣旨・内容

KONA 誌は当財団が年 1 回発行する粉体工学に関する英文の学術誌であり、世界中の研究者から粉体の科学及び工学に関する研究論文およびレビューを集め、これらを編集して発行し、全世界の関連する研究者、研究機関、図書館などに広く無償で配布している。KONA 誌はインターネットを通じて無料でダウンロードすることもできる。平成 22 年 6 月から Journal Citation Report に KONA のインパクト・ファクターが収録されている。また、平成 25 年 12 月から JST が運営するオンライン学術論文データベース J-STAGE への掲載も行われている。

平成 29 年度に出版した No. 35(2018)の掲載論文数は 21 編、ページは 287 頁で、1,100 部を印刷し、国内外に発送したが、次号 No. 36(2019)の出版についても、アジアブロックの企画・編集・査読等を粉体技術談話会に委嘱すると共に、欧米の編集委員会の協力を得ながら、2019 年初の出版を目指して進めていく。

また、KONA 誌出版のために、昨年 4 月から導入が開始された JST の支援によるオンライン投稿・査読システムでの運用幅を広げ、欧米ブロックの編集委員会の協力を得ながら、より円滑な投稿・査読・編集等が行えるように努める。さらに、印刷に関してもより効率的で質の高い処理が行えるように、新たな出版デジタル処理システムの導入を検討したい。

## IV. 年報の発行

① 予算額 105 万円

② 趣旨・内容

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果を公表するために発行される。年報は以下の内容を含む。

- (1) 理事長挨拶
- (2) 事業内容と実施状況の概要
- (3) 役員等名簿
- (4) 助成・表彰事業
- (5) 研究成果等の報告

なお、平成 28 年度に J-STAGE に当財団の年報が掲載されることが採択され、平成 29 年 5 月に出版した平成 28 年度年報が翌 6 月に初めて J-STAGE に掲載された。平成 30 年度にはそのバックナンバーの掲載の充実化も予定している。

以 上